

法人のご案内

 医療法人社団 東山会



「その人らしく」 笑顔で生ききるまちづくり

地域の皆さまが、住み慣れた場所で、
安心して、切れ目なく、良質な医療を受け、
病と付き合いながら「その人らしく」
その生を全うできる。

医療法人社団東山会は、そんな地域づくりに
貢献したいと考えています。

理念

- ・ 病院を利用される患者さまやご家族の方に満足していただく
- ・ 思いやりのあるサービス・人情味のあるサービスを提供する
- ・ この病院を誇りを持って働ける職場にする

理事長ごあいさつ

東山会は、1982年の創業以来（創業者：後藤田圭博）、「市民のだけれどもが、いつでも、安心して、より高度の医療を受けられる病院をめざす」ことを理念に掲げ、地域医療を担う“かかりつけ急性期医療機関”として歩んでまいりました。高齢化社会・慢性疾患主流の時代において、我々は医療の質を保つことに精進するとともに、患者さま・ご家族・

地域に「寄り添う」医療を行うことが大切な役割だと考えております。

患者さまが住み慣れた地域で安心して、切れ目なく、良質な医療を受け、病と付き合いながら療養ができるよう、地域の多種多様な医療機関、福祉施設・地域のコミュニティの皆さまと連携し「地域完結型の医療」を実現する地域のよき一員であり続けることをこれからも目指してまいります。

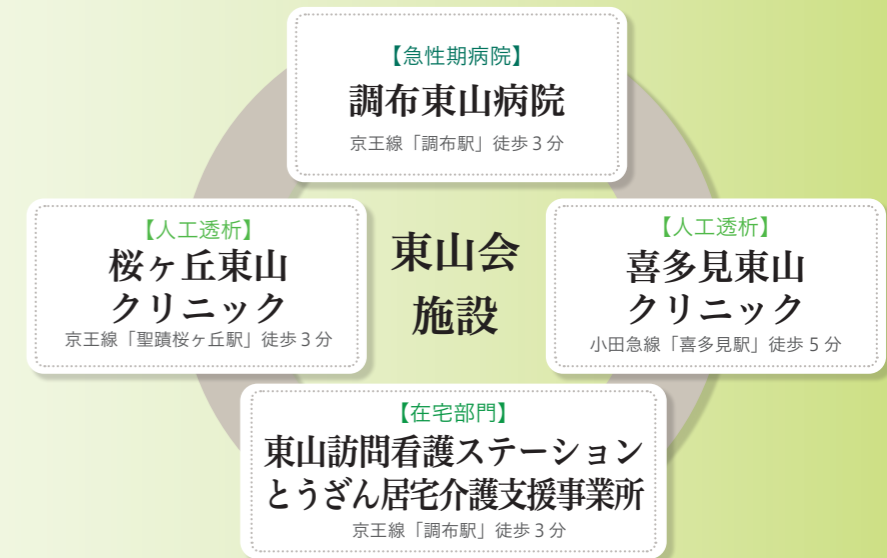
東山会 理事長 おがわ としこ
小川 聡子



法人概要

全施設、駅から徒歩5分以内。
アクセス抜群の立地で、
地域の皆さまの生活に寄り添う
医療を提供します。

法人名称	医療法人社団 東山会
理事長	小川 聡子
設立	1989年1月
全職員数	434名



調布東山病院

院長	須永 眞司	設立	1982年10月
ベッド数	83床（一般病床）、透析66床	職員数	362名
診療科	内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科（人工透析）、外科、消化器外科、大腸・肛門外科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、放射線科	事業内容	外来、入院、2次救急、人工透析、訪問診療、内視鏡検査・治療、人間ドック・各種健康診断
所在地	〒182-0026 東京都調布市小島町2-32-17	電話	042-481-5511（代表）
アクセス	京王線「調布駅」より徒歩3分		

桜ヶ丘東山クリニック

所長	片岡 肇一	設立	1990年4月
ベッド数	透析40床	職員数	31名
診療科	内科（人工透析）	電話	042-338-3855
所在地	〒206-0011 東京都多摩市関戸2-24-27		
アクセス	京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」より徒歩3分		

喜多見東山クリニック

所長	茅野 浩子	設立	2001年6月
ベッド数	透析34床	職員数	27名
診療科	内科（人工透析）	電話	03-5761-2312
所在地	〒157-0067 東京都世田谷区喜多見9-10-27		
アクセス	小田急線「喜多見駅」より徒歩5分		

東山訪問看護ステーション・とうざん居宅介護支援事業所

管理者	佐久本 和香（訪問看護） ・ 山口 香（居宅介護）	設立	2016年10月（訪問看護） 2000年4月（居宅介護）
所在地	〒182-0024 東京都調布市布田1-36-6 ロール調布1階 京王線「調布駅」より徒歩3分	職員数	12名
		電話	042-481-5626（訪問看護） 042-481-5731（居宅介護）

調布東山 病院

当院は、地域から求められる医療をバランスよく行う「急性期一般病院」「在宅療養支援病院」です。



院長ごあいさつ

「暮らしやすい街」であるために必要な条件は何でしょうか。治安がよい、交通の便がよい、買い物が便利、などいろいろな条件があると思いますが、医療体制が整っている、ということも重要なポイントのひとつではないでしょうか。現在の医療は高度に専門化・細分化しており、ひとつの医療機関ですべての問題を解決することができなくなっています。私たちは、地域の医療機関や介護保険事業所などと連携し、それぞれの役割を分担しながら、地域の皆さまに適切な医療・介護・福祉サービスを提供したいと考えています。

その役割分担の中で、調布東山病院は救急医療も含めた急性期医療を提供します。超高齢社会を迎えた日本においては、病院が病気を治すだけでなく退院後の生活を支援するという視点を持つことが重要と考え、入退院支援に力を入れています。

透析部門では、院内各部門ならびに地域の医療機関と連携して、地域に根ざした透析医療を行っています。ドック健診部門では症状が出る前に病気の早期発見を行い、早期治療につなげています。健康的な生活習慣を確立し、病気の発症そのものを抑止する予防医療の提供も、重要な役割のひとつです。また、通院が困難な高齢者に対する訪問診療の必要性も、今後ますます増えると予想されています。私たちは「東山訪問看護ステーション」と「とうざん居宅介護支援事業所」とともに、在宅医療に取り組んでいきます。

誰かがいつまでも、住み慣れた地域で自分らしい暮らしをおくることができるように、東山会の理念である、思いやりのあるサービス・人情味のあるサービスを心がけ、職員一同で良質な医療・看護・介護を提供してまいります。

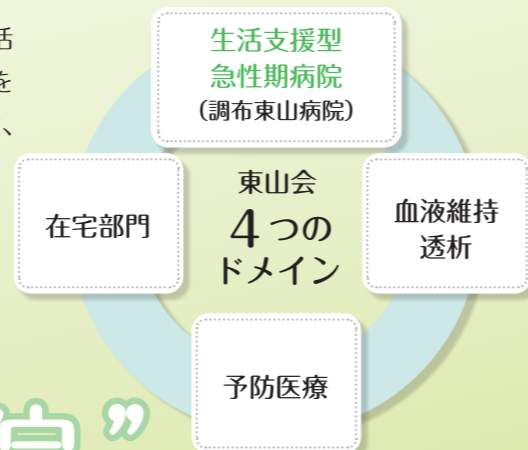


調布東山病院 院長 須永 眞司すなが しんじ

東山会では、介護と一体となった虚弱高齢者に対する包括的なサービスを提供するために、患者さまだけでなく、介護をされる方も含め、入院中から退院後の生活を考え環境を整えていきます。また、地域で安心して暮らしていくためのバックボーンとしての救急医療を提供します。

このように、急性期病院でありながらも、目の前の患者さまを「地域で生活している人」と強く意識し、その方の人生や価値観を汲み取りながら医療をしていく。東山会の中で、調布東山病院を「生活支援型急性期病院」と名付け、その役割を果たしていきます。

“生活支援型 急性期病院”



診療 - 専門領域からジェネラルまで -

高い知識・技術はもちろん、医師と患者さまの関係を重視した地域密着型ケアを大切にしています。質の高い急性期医療から、在宅医療、ターミナル、緩和医療へ。

患者さまが「その人らしく」笑顔で生ききるために必要な医療を、総合的に、また地域の医療機関と協力して提供します。

2018年度 外来患者数
内科 / 79,639名
外科 / 5,969名
整形外科 / 9,308名
計 / 94,926名

2次救急病院としての役割

増え続ける地域からの救急要請に応えるため、2次救急病院の役割を担っています。

2018年度 救急実績
救急車受入件数 / 1,667台
救急搬送入院割合 / 32%

入院 - チーム医療と入退院支援 -

5階病棟(41床)は外科・消化器内科系、6階病棟(42床)は内科系中心の患者さまが入院されています。医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士・言語聴覚士などのリハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど多職種によるチーム医療を行っています。また、入院初期から“退院支援”に力を入れており、患者さまが退院後も“その人らしい”生活を送っていただけるよう、支援をしています。



在宅医療



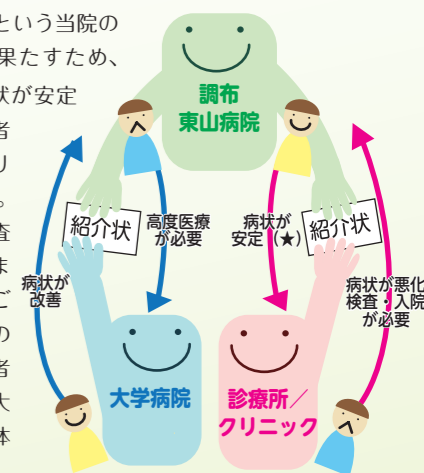
1987年から取り組む在宅医療。通院が困難になった方、病状不安定であったり医療処置が必要な方々ができるだけ最期まで自宅で過ごすことができるよう、東山訪問看護ステーションやとうざん居宅介護支援事業所と連携しながら診療を継続し、在宅での看取りにも対応しています。

人間ドック・健康診断 - 病気の早期発見と健康的な生活習慣のために -

受診エリアは、人間ドックエリア・健康診断エリア、また女性の方が快適に利用できるように女性専用エリアに分かれています。また利便性の向上と共に問診や検査をよりスムーズに行うため、ドックは8時・健診は8時15分スタート・完全予約制としています。ドックの結果は2名以上の医師がダブルチェック、さらに電子カルテと健診システムを同期させることにより、健診データを外来診療にも運用できるため、人間ドック受診後は、結果の相談等で当院の外来の利用が可能となっています。

地域連携について ~医療機関の役割分担~

「急性期病院・救急病院」という当院の地域医療の中での役割を果たすため、当院での診断の結果、病状が安定していると判断された患者さまに地域の診療所・クリニックをご紹介します。また、より高度な医療・検査が必要と判断された患者さまには大学病院や専門病院をご紹介します。他病院へのご紹介は、「地域全体で患者さまの健康を守る」ための大切な仕組みと考え、病院全体で取り組んでいます。



検査 - 患者さまの負担を減らす迅速な検査 -

各種検査設備が整っているため、必要時、迅速に検査を行うことが可能です。病気の早期発見、早期治療開始を可能とする大きなメリットのひとつです。また、地域の診療所からの検査依頼も多く、地域医療を支える役割を担っています。

人工透析



1982年の病院開設以来、地域に根ざした透析医療に携わってきた経験と実績を基に、慢性腎臓病 (CKD) 保存期から透析導入、維持透析管理までを院内各部門並びに地域の医療機関と連携して診療を行っています。2019年9月からは、腹膜透析療法の導入も始めています。

その人らしく
笑顔で生ききる
まちづくり

